

東京都市大学

理工系の女性卒業生の 実態調査結果を報告

東京都市大学は、2009年度から文部科学省の女性研究者支援事業「工学系イノベーションの男女共同参画モデル」に取り組んでいる。活動の一環として、2011年4月に理工系学部の女性卒業生を対象に実態調査を実施し、10月に結果報告会を行った。

調査を担当した女性研究者支援室によれば、予想を上回る500人以上の回答が得られ、理工系大学による同様の調査としては、全国的にも大規模なものだという。

調査結果から、卒業直後の就職率だけでなく、その後も高い有職率を維持していること、理工系分野に女性が少ない理由として「女性の意識」「男女の適性の差」を挙げる回答が多かったこと、などがわかった。また、「男性の補佐的業務しか与えられない」など、男女差を職場で感じたことがあるのは約6割で、学生時代の約2割を大きく上回った。

同大学は、調査結果を参考に、女性卒業生とのネットワーク構築や現役女子学生への支援にさらに力を入れている。